

思考力・判断力・表現力を育成するための公民科授業の工夫

—身近な社会的事象を教材として、生徒同士が教え合い意見を交換する学習活動を通して—

特別研修員 公民 柴崎晴央（高等学校教諭）

～ 目指す生徒像 ～

思考力・判断力を身に付け、自分の意見を表現できる生徒

1～4 班が 1 単位時間ごとに順番に教師役を務めた。

<各班の担当>

- 1 班「衆議院の優越」
- 2 班「行政の民主化」
- 3 班「裁判員制度」
- 4 班「地方財政の課題」



教え合う活動の後、1 単位時間ごとに身近な社会的事象を教材として意見交換を行った。例えば、3 班が教えた回の「死刑制度の是非」では、下記※のような意見が出た。

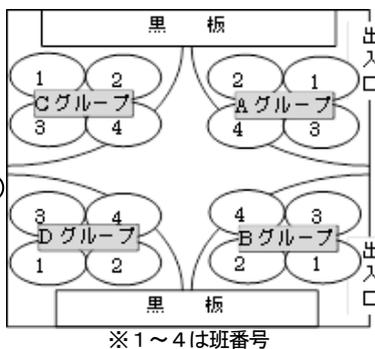


「手立て 2」 生徒同士がグループごとに
教え合う学習活動

「手立て 3」 生徒同士がグループごとに
意見を交換する学習活動

10 名程のグループを
4 つ作り、それぞれを 4
つの班に分ける。グル
ープごとに各班が教え
合う活動を 4 回繰り
返します。

教室レイアウト



※「死刑制度の是非」
『廃止すべきだ。いくら大きな罪を犯したとしても、一人の人間を殺していいことにはならない。冤罪であった場合取り返しがつかない。』
『被害者感情からも存続すべきだ。もし廃止されれば犯罪の抑止力が弱くなり、もっと残酷な事件が増えると思う。』など

「授業計画書」で
教える内容や板書
事項を整理する。

「手立て 1」 生徒同士が班ごとに
授業計画を作成する学習活動

生徒の実態

知識の習得で満足してしまう生徒が多く、思考力・判断力・表現力に課題がある

成果 多くの生徒が社会的事象に対して自分の意見を持つことは大切だと思うようになり、それに対する思考力・判断力の向上を実感できた。加えて、知識・理解の面でも効果があったと感じる生徒も多く、社会的事象に対する関心も高まった。

課題 手立て 2 では、予定していた時間内に収まらないグループがあり、時間差ができてしまった。手立て 3 では、自分の意見を表現する力の向上を実感できるまでには至らなかったため、継続的な取組が必要である。